

特別研究部門

水口陽子、岩永喜久子、酒井禎子、藤田 尚、樺澤三奈子、水沢泰正（新潟県立看護大学）
山田洋子（新潟県福祉保健部 医師・看護職員確保対策課・副参事）

I. 今年度の研究の概要について

1. 研究目的

近年、地方の活性化などを期待した UI ターンへの注目が高まっている。今年度の特別研究部門では、「A 県内に UI ターンした看護職員の仕事と生活における支援ニーズ」をテーマとし、「県外から A 県に UI ターンした看護職員の特徴と UI ターンに関連した仕事と生活における支援ニーズを明らかにする」ことを目的とした実態調査を行った。

2. 研究方法

2015 年 4 月～2018 年 9 月に県外から A 県内の病院に UI ターンし、現在も A 県内の病院に勤務する看護職で本研究の協力が得られた者を対象に、自記式質問票（多肢選択式および自由回答）による質問紙調査を実施した。調査に先立って、新潟県立看護大学倫理委員会の審査・承認を受けて実施した。

3. 結果

質問票は計 176 部配布し、108 名より回答が得られ（回収率 61.4%）、108 名を分析対象とした。対象者は、平均年齢 33.1 歳（SD9.4）で、そのうち、出身地が A 県である U ターン者は 80 名（74.1%）であった。A 県に UI ターンした理由としては「親または家族がいるため」が最も多く（51.9%）、UI ターンするにあたって心配したこととして、「降雪の程度など、自然環境」（60.2%）や「ライフスタイルが変化すること」（58.3%）を挙げた者が多かった。UI ターン時に重視した情報として、生活上では「生活環境の利便性」（58.3%）を挙げる者が多く、主な情報源となったのは「本県在住の家族・親戚」（46.3%）であった。また、就職に関して重視した情報として最も多かったのは「通勤時間や通勤手段」（58.3%）であり、主な情報源は「病院・施設が運営するホームページ」（72.2%）であった。UI ターン時に必要だった支援に関しては、生活を始めるにあたっては「UI ターン支援セミナー・相談会」（38.0%）を、就職するにあたっては「病院見学会」（54.6%）を指摘する者が多かった。現在の生活あるいは仕事に対する満足度として、「満足」「やや満足」と回答した者は、それぞれ 79.7%、70.4%であり、21 名（19.4%）が今後も「ずっと働きたい」と回答していた。

II. 今後の課題

UI ターンした看護職の 7 割以上が現在の生活に満足しているが、UI ターン時には降雪や生活環境の変化への不安を抱えていたことが明らかになった。本調査結果をふまえて、県外から UI ターンを考える看護職が、生活や就職に必要な情報・支援が得られる方策を行政とともに検討し、今後の取り組みに活かしていくことが課題である。